

西部支部巡検会の報告：天竜市二俣の地質について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 加藤, 和男 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00025156">https://doi.org/10.14945/00025156</a>

# 西部支部巡検会の報告

## ～天竜市二俣の地質について～

加藤 和 男\*

### 1. はじめに

身近な場所の巡検会で西部地区会員の行事参加者を増やす企画の第二段として天竜川のれきの観察と二俣の地質について、晴天に恵まれた平成11年2月14日(日)に学習会を行った。

案内者：桜井貞彦会員(地質)・青島晃会員(天竜川のれき)、桜井会員が長年取り組んでいる地元の地学に関するフィールドワークを資料と説明によって学習した。また、フィールドワークと地元の公民館活動との関係の一端を示唆頂き大変有効な1日であった。参加者7名。10時—15時30分。

### 2. 巡検場所の説明

#### 2-1 天竜川のれき種について

天竜川流域の地質を反映して、れきの種類は豊富である。天竜浜名湖線鹿島鉄橋の下には、チャートの大きな露頭がある。この中に1m程の水溜があり、ポットホールといい、水流によりれきが回転してできたものである。本来は、河川れきの下にあって観察できないこの露頭が河床の低下により出現をしたもので、上流の船明ダムの影響と考える。また、同様の影響が鉄橋の橋脚にも表れている(静岡地学第76号を参照)。恵那山(岐阜県)を作る濃飛流紋岩、中央構造線の活動と同時にできた鹿塩圧砕岩、領家、三波川、秩父の各変成岩に由来するれきが多くあり、採集していて楽しませてくれる。

#### 2-2 赤石裂線の露頭

二俣川を渡って(右岸側)、直に河口側へ100m程行くと、天竜川との合流地点になる。この河床に赤石裂線の露頭がある(すずかけ病院の前)。この露頭の岩石が、秩父帯の輝緑凝灰岩(右岸側)で、左岸側が河床堆積物の下に二俣層群の泥岩がある(山を作っている岩石)。

#### 2-3 食い違い石(砂岩)

赤石裂線(断層)が活動をした時、破碎帯にあった砂岩がれきになり、この時、横からの力を受けて割れ、少しずつ再び固結した(愛知県阿寺七滝の巣山れき岩と同じ)。そのためれきが、食い違いになっており、二俣町の旧町並みに沿った清滝寺近くの露頭で観察できる(図1)。また、この食い違い石が含まれる露頭が、最近開館した秋野不矩美術館へ行く途中にもある。露頭の分布は、赤石裂線に平行に成っていることがわかる。

#### 2-4 高・中位段丘れき層

鳥羽山公園で観察できるれきは、旧天竜川が標高100—120mを流れていた頃運んだもので、その分布を調べると、旧天竜川の跡が推定でき、二俣の町が天竜川の河川敷に出来たこともわかる(図2)。

\* 静岡県立池新田高等学校

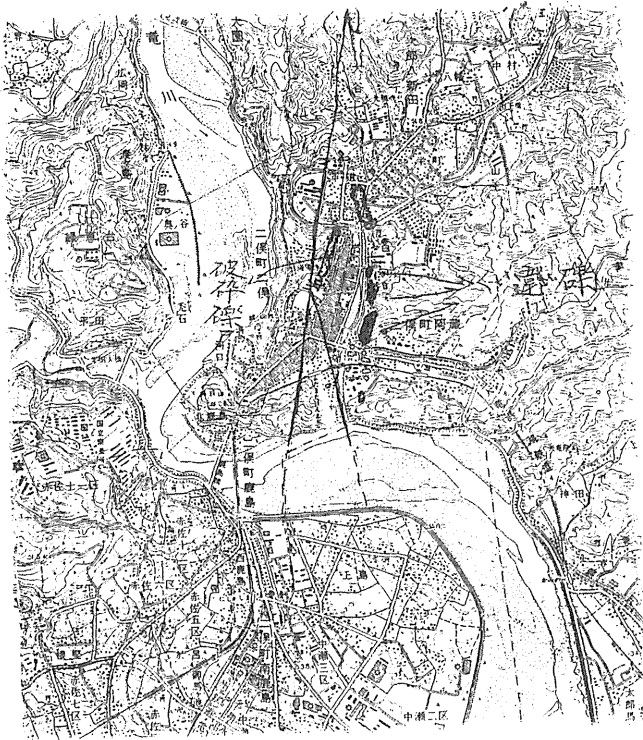


図1 赤石裂線及び中新世礫岩層の分布



赤石裂線(赤石構造線)

図2 二俣周辺の段丘礫層の分布と赤石裂線

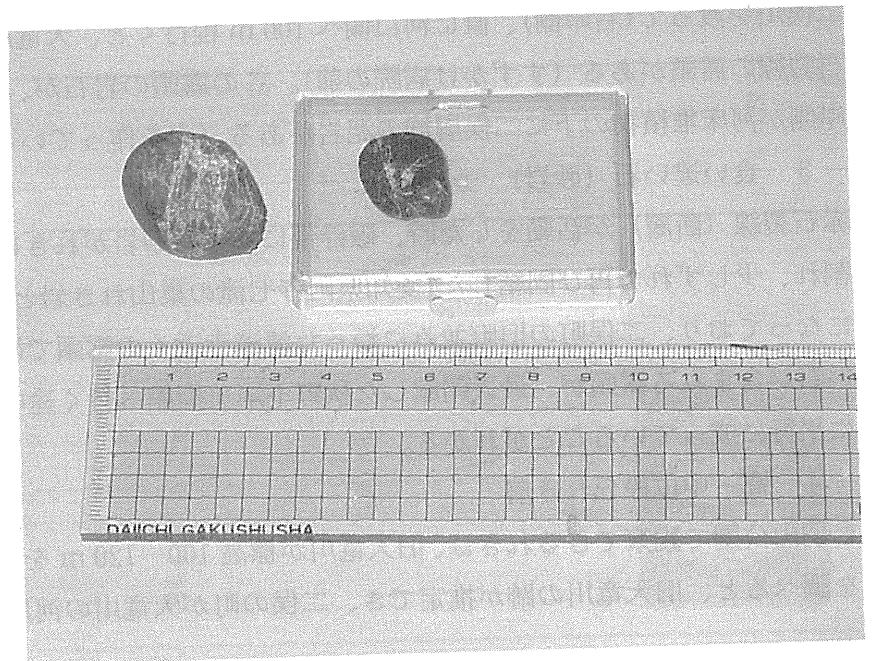


写真1 食い違い石 (二俣)